

平成29年度環境測定分析統一精度管理ブロック会議（関東・甲信・静支部）議事録

日時：平成30年2月27日（火）
13時30分から16時まで
場所：JA長野県ビル 11A会議室

1 開会

2 挨拶

長野県環境保全研究所長

西澤 清

3 議事

(1) 環境測定分析統一精度管理調査について

環境省水・大気環境局総務課環境管理技術室室長補佐

石関 延之

(2) 平成29年度環境測定分析統一精度管理調査結果について

(一財)日本環境衛生センター環境科学部次長

鹿島 勇治

(3) 環境測定分析における留意点及び精度管理について

国立研究開発法人産業技術総合研究所 環境管理技術研究部門
計測技術研究グループ長

中里 哲也

元日本環境衛生センター

西尾 高好

国立医薬品食品衛生研究所生活衛生化学部第三室長

小林 憲弘

4 質疑応答

(参)：参加者 (有)：有識者 (調)：調査実施機関

(1) 事前にとりまとめた質問・要望等への回答

(一財)日本環境衛生センター環境事業第二部課長代理

佐々木 秀輝

(2) BODについて

(参) BODに参加させていただいたが、当所の報告値が平均値より低い値になってしまった。植種液の活性度が重要であるということで、活性度を調べてみたら200程度であり、JISで規定されている値より少し低い値であった。植種液の活性度以外に値が低くなる要因や知見を教えてください。

(有) 活性が落ちるといことが今回の調査では一番多かった。それが主要因でないとすれば他の要因を探すしかないがなかなか難しい。容器類や水に有機物が入っていないかチェックすることが大事。他には市販の希釈液を使うなどして原因探ることが考えられる。

(3) VOC について

- (参) VOC のクロマトグラムの形状について、私どものところでは排水はヘッドスペースで測定しているが、スプリットレス注入しているので軽い成分はピークの形状が幅広くなってしまう。定量はできているのだが、このようなピーク形状での測定は適切なかどうか教えて頂きたい。例えば注入法をスプリットにしてピークをシャープにするなどした方が良いのか。
- (有) 資料4 ページの右側の部分のような状態でもピークを取ることはできると思う。気を付けることはブランク試料の面積の切り方が右側の一部分しか切っていなかったとか、あるいはオートで取った時にギザギザがあるところに引っかかってピークごとに切り方が一定でないという可能性があるのですが、そこを気をつければ結果としては問題ないかと思う。それが最適かどうかというのは意見が分かれるところだと思うし、条件を変えると他の成分がどうなるかということが出てくると思うので、最小限注意する点とすればピークの切り方になってくるかと思う。同じような形状で出てきていれば結果として定量値は保証されると思う。ただし、熟練していない人はそういうピークを見たときにそこでどういう判断になるかとか、装置の自動解析で出した時にピークごとにまちまちな切り方になっているということだとまずいと思う。そのあたりを総合的に判断するしかないかと思う。

(4) 配付試料について

- (参) 「環境測定分析統一精度管理調査について」の資料の22 ページに、残余試料があれば送付することが可能と記載がある。BOD について今回の試料をもう一度測定したいと思っているが、試料はまだ残っているか。
- (調) 試料は残っているが、水質試料については1ヶ月の保存性試験しかしていないため濃度保証はできない。それについて販売はできないので、早い段階でご相談いただければ提供は可能。特に水試料やガス試料はそういうことがあるので早めに言っていただきたい。

5 閉会